

# 特別の教科「道徳」の実践・評価に関する事例的研究 —小学校第1学年「国や郷土を愛する態度」を扱った 授業の実践を通して—

A Case Study on the Implementation and Evaluation of a Special Subject “Morality”  
— Through the implementation of a class about “attitudes to love of country and hometown” in  
the first grade of an elementary school —

清水 秀夫\*<sup>1</sup>、大友 厚希\*<sup>2</sup>  
Hideo SHIMIZU, Atsuki OHTOMO

## 要 旨

特別の教科道徳の指導では、児童が直面する様々な状況の中で、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断するとともに、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくことが求められている。本研究では、小学校第1学年の内容項目「国や郷土を愛する態度」の指導において、問題解決的な授業を構想した。児童の実態に合わせた読み物資料の改作、中心発問の吟味、役割演技の設定等を手立てとして取り入れ、実践を通してその効果を検証した。本実践における児童の姿から、これらの手立てが道徳的实践力を高める上で有効であることが示唆された。

## 1. 研究の背景および目的

中央教育審議会(2014)は、小学校及び中学校、高等学校等における道徳教育の改善・充実を図るため、「道徳に係る教育課程の改善点」を答申としてまとめた。これを受け、2015年3月には学校教育法施行規則が改正され、道徳は教育課程上「特別の教科」として新たに位置付くこととなった。また、小学校学習指導要領も一部改正の告示が公示され、移行措置期間を経て、小学校では2018年度から検定教科書を導入

した指導が全面実施となった。

道徳教育が重要視され、教科化された背景には、いじめの問題への対応がある。小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編(2017)では、児童がいじめという現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性のある力を育成していく上で、道徳教育に大きな役割を果たすことを強く求められていること、道徳教育を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見詰め、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要であることが示されている。そして、道徳教育の充実を図るため、道徳の時間の役割を明確にした上で、適切な教材を用いて確実に指導を行うとともに、問題解決的な学習や体験的な活動を取り入れ、指導の結果を明らかにしてその質的な向上を図ることを求めている。これらのことから、今後、教科化された道徳の効果的な指導法について、授業実践を通して研究していくことが必要である。

小学校における道徳教育は、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行われている。児童の道徳性を高めるために、児童の実態を把握して重点目標を設定したり、意図的・計画的に指導できるよう工夫された年間指導計

\* 1 共立女子大学 \* 2 調布市立八雲台小学校

画を作成したりして取り組んでいる学校も多い。また、道徳が教科化されたことを受け、校内研修等で道徳の指導法について議論し、教師の指導力向上に取り組んでいる学校も多い。一方で、道徳教育を推進する指導者の意識、授業で活用する教材等について、課題も報告されている。

まず、道徳教育を推進する指導者側の意識について、文部科学省(2016)は、学校における道徳教育には、歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること、他教科に比べて軽んじられていることを報告している。また、塩見能和(2007)は、道徳の時間や道徳教育について、目前に起こるトラブルやその他の学級問題の処理に道徳の時間が使われやすいこと、学力を確実につけるためには正規の時間だけでは足りず、道徳の時間が他の教科の時間として使われやすいこと、道徳教育は学校教育活動全体で行うという主旨から、結果や効果がすぐに出ない活動として軽視される傾向にあることを指摘している。

次に、道徳の時間に活用する教材について、荒木紀幸(1997)は、教材として扱われる頻度が高い副読本等の読み物資料について、児童が読んでねらいや正しいと分かる価値がはっきりと示されていて、白けやすく、授業を面白くさせない原因となっていること、副読本や本読みに好意的な児童が多い反面、その内容に不満をもつ子どもがかなりいることを指摘している。

さらに、道徳の時間に活用する教材の扱い方について、文部科学省(2016)は、主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導が行われる例があることを報告している。また、田沼茂紀(2013)は、道徳の時間について、指導内容や使用教材に関係なくパターン化した、どこか冷めた授業が常態化していることや、子どもが本気になれない余所事の授業、多くが教師の正答を探すゲーム化授業に陥っていることを危惧している。

これらの課題を踏まえ、本研究では、特別の教科道徳の指導方法を検証することを目的に、小学校第1学年の内容項目「国や郷土を愛する態度」の指導において、問題解決的な授業を構想して実践を試みた。そして児童の様子やワークシート等への記述から、実践による成果や課題を明らかにすることとした。

## 2. 研究内容

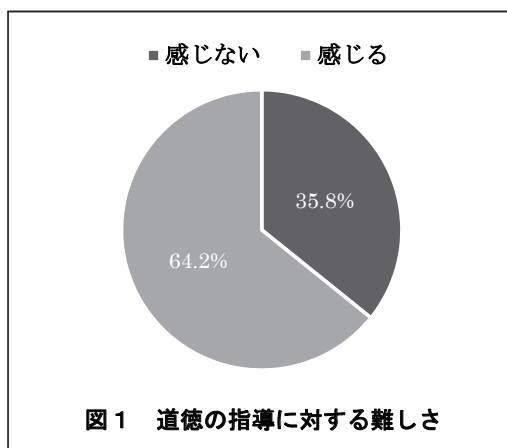
### 2-1 授業の構想

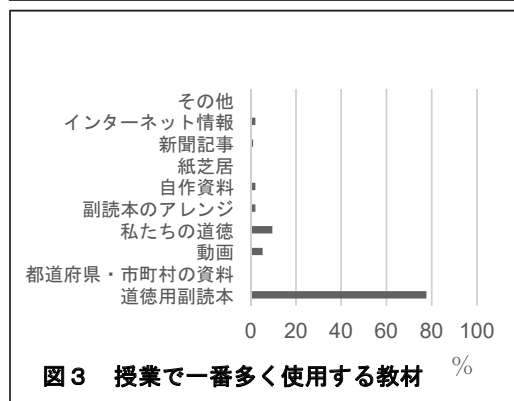
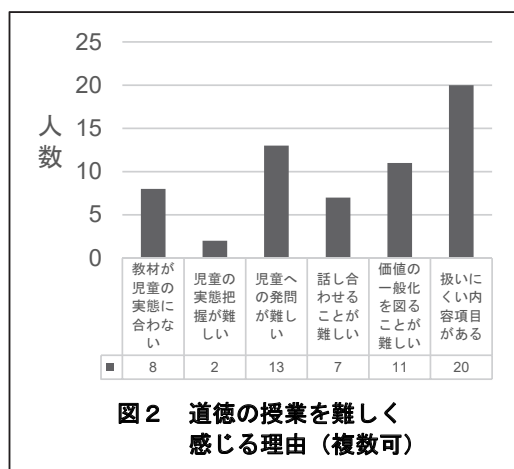
#### (1) 小学校教員を対象とした意識調査

本研究では、授業構想に先立ち、小学校の教員を対象に特別の教科道徳の指導に関する意識調査を行った。調査の概要は以下の通りである。

- ①調査対象 群馬県内公立小学校2市8校の教員 95名
- ②調査時期 平成29年5月
- ③調査方法 無記名マークシート方式(一部記述)
- ④調査内容 道徳指導に関する意識や用いる教材、指導に難しさを感じる内容項目 等

調査結果を、図1、2、3及び表1に示す。まず、「道徳の時間の指導に難しさを感じるか」について結果を図1に示す。調査を行った教員95名のうち、およそ2/3の教員が指導に難し





さを感じていることが明らかとなった。次に道徳の指導に難しさを感じている教員にその理由を聞いた。結果を図2に示す。理由として一番多かったのが、「扱いにくい内容項目があること」で、次いで「発問の難しさ」、「教材が児童

の実態に合っていない」ことが挙げられた。さらに、図3に示すように、道徳の授業において一番多く活用する教材は道徳用の副読本であり、調査対象教員のおよそ80%にも及ぶことが明らかとなった。

また、調査では、小学校学習指導要領（2017）に示された22の内容項目から、授業で難しさを感じる内容項目と、重視したい内容項目を、それぞれ5項目まで選択可として選び出してもらった。結果を表1に示す。難しさを感じる価値項目としては、「感動・畏敬の念」、「伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度」が多い。また、表1には示していないが、C「主として集団や社会との関わりに関すること」や、D「生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の内容項目に指導の難しさがあることが明らかとなった。

重視したい内容項目としては、「思いやり・親切」、「善悪の判断・自主・自立・自由と責任」が多かった。他にも、A「主として自分自身に関すること」やB「主として人との関わりに関すること」の内容項目を重視したいという回答が多かった。

意識調査の結果、道徳の指導に難しさを感じている教員が多いこと、その理由として、「感動・畏敬の念」、「伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度」等の扱いにくい内容項目があること、さらに、副読本を中心とした教材が扱う内容項目によって児童の実態に合っていないと感じている教員が多いことが明らかとなった。

表1 難しさを感じる内容項目と重視したい内容項目

指導が難しいと感じる内容項目	人数	指導で重視したい内容項目	人数
D21 感動・畏敬の念	59	B7 親切・思いやり	60
C17 伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度	50	A1 善悪の判断・自立・自由と責任	56
C18 国際理解・国際親善	38	D19 生命の尊さ	43
A6 心理の探究	37	B11 相互理解・寛容	33
D22 よりよく生きる喜び	20	A2 正直・誠実	32
		C13 公正・公平・社会正義	32





について主人公が否定的な印象をもっている場面を、資料後半部分では町や散歩に好意的な印象をもつ場面をそれぞれ設け、散歩に行く前後での気持ちをおさえやすいようにした。また、「祖母、犬、お店、公園、紅葉、友達」等、児童にとって身近な人や場所・場面等を多く取り入れることで、児童の生活から離れないようにするとともに、資料の内容を自分事として捉えられるように配慮した。

#### (4) 問題解決的な学習の展開

文部科学省(2017)は、教科化された道徳の授業展開の方法として、問題解決的な学習を取り入れる等の指導方法の工夫を図ることを求めている。問題解決的な学習はこれまでも理科教育を中心に他教科の学習でも取り入れられている。道徳における問題解決的な学習について、柳沼良太・竹井秀文(2005)は、問題解決型の道徳授業の特徴について、問題解決型の道徳授業では、子どもが自ら道徳的問題の状況を分析し、登場人物の考えや心情を思いやり、実際に道徳的行為をした場合の結果を予想するため、子どもの日常的な道徳実践に結び付けやすいことを指摘している。また、佐々木夕子(2014)では、問題解決型の道徳授業について展開前段で解決策の吟味を促す発問の工夫を行い、展開後段で内面的資質を育成するモラルスキルトレーニングの工夫を行った結果、児童は展開前段で多様な視点から道徳的価値について考え、道徳的価値の自覚を深めることができたことを報告している。

これらのことから、本研究では、問題解決的な授業を行うことが道徳実践力の育成に有効的だと考えた。そして、問題解決的な授業を行う際に、①「導入でねらいとする道徳的価値をしっかりと意識させる、問題を把握させること」、②「展開前段では、登場人物の心情をもとに、道徳的価値について考えを深められるようにすること」、③「ロールプレイングのような行動化やシェアリング等を取り入れながら道徳実践力の育成につなげること」を主な手立て

とした。

## 2-2 授業の実際

### (1) 主題・実施対象・実施日

郷土を愛する心(資料：わくわくさせるぼくのまち)

東京都公立小学校 第1学年 35名

2017年12月8日

### (2) 検証方法

授業中の児童の様子(録画)、ワークシートへの記述の分析

### (3) 実践

#### ①導入

導入では、「みなさんは休みの日にどう過ごしていますか?」と発問をした。児童からは「公園」、「友達の家」、「釣堀」等、児童の住む地域にある場所に関わる反応があった。次に「みんなが住んでいるこの町のいいところはどこですか?」と発問をすると、答えられる児童が多い一方で、なかなか答えられない児童も多かった。地域に対する実態を児童自身と確認したうえで、「いいところが見つけられている子はもっと、まだ考え中だよという子は1つでも見つけられるように、今日はみんなで自分の町について考えていこう」と声掛けをして価値の方向付けを図るとともに、「自分の町のよいところを見付ける」という問題を設定した。

#### ②展開前段

展開前段では、1年生の実態に合わせ、紙芝居型で資料提示を行った。資料終盤では、「もう終わり?」等の声も聞かれ、集中して話を聞いている児童が多かった。読み物資料の内容や長さは児童の実態に合っていたと考えられる。資料の提示後は、主人公の散歩に行く前と後での気持ちについて考えるよう促し、散歩に行ったことで「つまらない」という気持ちや、「楽しかった、よかった」という気持ちに変化したことを捉えられるようにした。

その後、気持ちが変化したわけを問い掛け、中心発問「お散歩から帰ってきたけんたは、ど

うして町のことが好きになったのか考えましょう」を提示し、ワークシートに記述するよう促した。その際、机間指導を行い、「楽しかったから」と記述している児童にはその理由を書くよう促した(図5)。

中心発問に対して、「町には楽しいものがいっぱいあったから」、「人や犬にあって楽しかったから」等、記述内容は異なるものの、すべての児童が主人公の気持ちを考えてワークシートに記述することができた。

次に、主人公は、なぜ友達に教えてあげたくなったのか考えるよう促した。その際、教えなくなった理由を自分事として考えられるよう役割演技を取り入れた。役割演技をしている様子を図6に示す。役割演技では、主人公が友達に教えている場面を設定した。台本は用いず、授業者は「どのように友達に教えてあげればよいか」とだけ声掛けをした。役割演技に取り組んでいる児童の発話プロトコルを図7に示す。

役割演技では、児童が自分たちで台詞を考え、想像力を働かせて演技することができた。役割演技を行った後、授業者は友達に教えなくなった理由を考えるよう促した。児童からは、「散歩で見たものを教えてあげたいから」、「友達とも散歩に行きたいから」等の意見が出された。

### ③展開後段

展開後段部分で、授業者は「みんなもけんたくんのようにお友達に教えてあげたい、自分の住んでいる町の好きなおとこやいいところありますか」と発問をし、児童自身の日常生活と関係付けながら考えられるようにして、道徳的価値に迫り、道徳的実践力につながるよう配慮をした。児童からは、「幼稚園の盆踊りのことを教えたい」、「床屋さんが学校の帰りにいつも手を振ってくれる」等の発言があった。

終末では、ワークシートを用いて学習の振り返りを行った。ワークシートには、自分の住む町のよいところを考えて、自分の思ったことを記述させ、授業を終えた。本時の板書を図8に示す。



図5 ワークシートに記述する児童



図6 役割演技の様子

Ca 1 : 「昨日いいことがあったんだよ」
Cb 1 : 「なにに教えて」
Ca 2 : 「パン屋のおじさんに会ったり、白い犬に会ったりしてさ、楽しかったんだよ」
Cb 2 : 「へえ、私もやってみたいな」
Ca 3 : 「じゃあ、明日一緒に行こうよ」
Cb 3 : 「うん、明日一緒に」

図7 児童の発話プロトコル

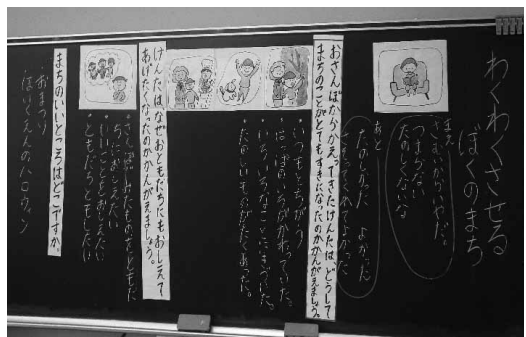


図8 授業の板書

## 2-3 授業の評価

### (1) 授業の導入における価値の捉えと問題把握

本実践では、導入部分で、自分が住んでいるこの町のいいところはどこかを問い掛け、本時で扱う価値の方向付けを行うとともに、「自分たちの町のよいところを見付ける」という問題を設定した。展開後段の振り返りでは、自分の町のよいところを考えて思ったことを記述させた。児童Aが記述したワークシートを図9に示す。この児童は、「一番好きな公園に友達を案内したい」と記述しており、児童自身が日常生活と関連付けながら、本時で扱った道徳的価値に迫ることができていることが分かる。また、友達に教えるという実践意欲も高まっていることが分かる。

児童が記述したワークシートを分析した結果、35名中22名が「町のよいところは公園があるところ」、「おまつり」、「町の人が挨拶してくれる」、「近所のスーパーマーケットは安く買える」等、町に関する場所や人、行事に関することを記述していた。また、「(町のことを)考えられて嬉しかった」、「町のいいところが知れた」、「自分の町も楽しいと思った」等の記述もあった。これらの記述から、児童は自分の町のよいところに目を向け、愛着を深め、さらに友

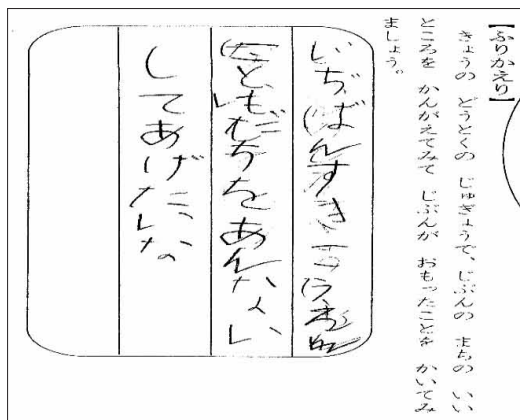


図9 児童Aのワークシート

達に教えたいという実践意欲が培われたと考えられる。

これは授業の導入で、「町のいいところはどこか」と発問し、問題として設定したことで、単に読み物資料の内容理解にとどまらず、児童自身が町のよいところを考えながら学習することができたものと考えられる。

### (2) 登場人物の心情をもとに、道徳的価値について考えを深める

道徳の授業において、登場人物の心情をもとに道徳的価値について考えるためには、中心発問が重要である。中心発問は主人公の葛藤場面に視点を当て、その理由を考えさせたり、主人公の行為や気持ちの背景を考えさせたりすることが有効である。本時の授業では、散歩から帰ってきたけんたが町のことを好きになった理由を考えさせることを中心発問として設定し、ワークシートに記述させた。児童Bが記述したワークシートを図10に示す。この児童は、楽しかった理由として、「町には楽しいものがたくさんあったから」という明確な根拠を挙げていることがわかる。

児童が記述したワークシートを分析した結果を表2に示す。主人公が町のことを好きになった理由として、20%の児童が、自分の町を散歩することが楽しい、散歩のよって面白いものを見つけたから等の根拠を記述している。また、読み物資料にあった、パン屋や犬、公園の紅葉

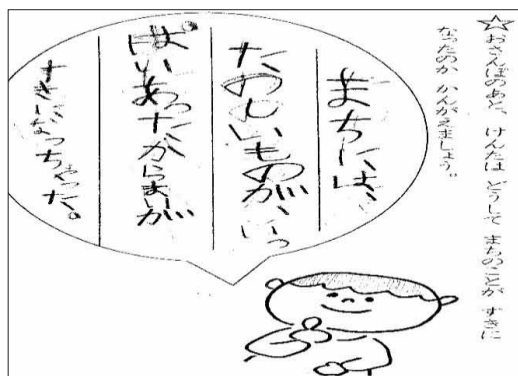


図10 児童Bのワークシート

表2 記述内容の分類

町のことを好きになった理由	割合 (%)
散歩が楽しい・町には面白いものがある	20.0
町にある物や人との出会い	17.1
新たな気付きや発見	14.3
みんなに教えたい・友達と行きたい	48.6
	n=35

など、具体的な人や物との出会いを記述している児童もいた。さらに、いつもと違う町のように、町はこんなにすてきなのだ等、新たな発見や気付きに喜びを感じていたことを記述した児童もいた。記述内容で一番多かったのは、散歩で見付けたことをみんなに教えたい、友達と散歩に行きたい等の記述だった。これは、町を好きになった理由にとどまらず、町のことを広めていきたいという考えの表れである。これらの記述から、本実践での発問が内容項目C17、低学年「児童が住む町の身近な自然や文化に愛着を深め、親しみをもって生活する」という道徳的価値についての考えを深めることにつながったと考えられる。

### (3) 役割演技による道徳的実践力の育成

本実践では、中心発問によって主人公が町を好きになった理由を話し合った後、読み物資料終末の「友達に教えなくなった」という記述に着目し、その理由を考えるよう促した。その際、主人公の気持ちを想像して考えられるように役割演技を取り入れた。役割演技は、主人公が町のよさを友達に教えている場面を設定し、どのように教えてあげたのかを主人公役と友達役に分かれて2人組で取り組ませた。台本は用意せず、児童が主体的に考え取り組めるようにした。その結果、図7に示すように、「散歩で見たものを教えてあげたい」、「友達と一緒に散歩に行きたい」等の発言が見られた。この姿は、児童が資料には書かれていない主人公の気持ちを想像して答えている姿である。

本実践では、「自分の町のよいところを見付

ける」という問題を設定しているが、展開後段で児童が記述した振り返りでは、自分の町のよいところやそれを友達に教えたいという記述が多く見られた。これは、役割演技を行ったことにより、児童が本時の問題を解決するとともに、町のよさを積極的に友達に伝えようとする実践意欲を高めたことを示していると考えられる。

### 3. まとめ

本研究では、道徳教育における今日的な課題を踏まえ、小学校第1学年の内容項目「国や郷土を愛する態度」を扱った問題解決的な授業を構想し、実践を行った。また、児童の実態に合わせた読み物資料の改作、中心発問の吟味、役割演技の設定等を行い、効果的な指導法について検証した。本実践における児童の姿から、これらの手立ては道徳的実践力を高める上で有効であると考えられる。

小学校における道徳の時間の指導では、年間指導計画の確実な実施、45分で完結する授業の展開等、様々な課題がある。今後も授業実践を通して、児童の道徳的実践力を高めるための様々な手立てを考え、検証していく必要がある。

### 謝 辞

研究を進めるにあたり、群馬県内公立小学校8校の先生方にはお忙しい中、特別の教科道徳の指導に関する意識調査にご協力いただいた。また、本実践を受け入れていただいた東京都内公立小学校の先生方には、事前の打ち合わせから準備、ワークシートのとりまとめ等で大変お世話になった。また、本実践に対する有益なご指導、ご助言をいただいた。ここに深甚の謝意を表す。

### 引用文献

- 中央教育審議会 (2014)：道徳に係る教育課程の改善等について (答申) ,1-23.  
 文部科学省 (2017)：小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編。



- [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afeldfile/2017/11/29/1387017\\_12\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afeldfile/2017/11/29/1387017_12_3.pdf)  
文部科学省(2016):特別の教科道徳の指導方法・評価等について(報告)1.  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afeldfile/2016/08/08/1375482\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afeldfile/2016/08/08/1375482_1.pdf)  
荒木紀幸(1997):道徳の時間の問題点と今後の課題,兵庫教育大学教科教育学会紀要,第10号,1-10.  
塩見能和(2007):現代の子どもと道徳教育の課題,四天王寺国際仏教大学紀要,第44号,173-192.  
田沼茂紀(2013):道徳教育充実に向けての問題把握とその解決のための課題,光り輝く教育立県ちばを推進する懇話会(第2回),配布資料.  
「道徳」編集委員会(2015):道徳副読本みんなのどうとく①,東京書籍,58-60.  
文部科学省(2017):小学校学習指導要領,東洋館出版.  
柳沼良太・竹井秀文(2005):問題解決型の道徳授業の理論と実践,岐阜大学教育学部研究報告教育実践研究,第7巻,245-254.  
佐々木夕子(2014):道徳的实践力を育成する道徳の時間の工夫—モラルスキルトレーニング

ングを取り入れた問題解決型の道徳の時間の授業を通して-,広島県教育センター紀要,[http://www.hiroshima-c.ed.jp/center/wp-content/uploads/kenkyu/choken/h26\\_zennki/zen17.pdf](http://www.hiroshima-c.ed.jp/center/wp-content/uploads/kenkyu/choken/h26_zennki/zen17.pdf)

### Abstract

When teaching the special subject of morality, we examined what one can and should do in various situations encountered by children. In addition, it was necessary to consider the course of action and how to make this action practicable. In this study, we devised a problem-solving lesson under the instructional content item of "attitudes to love of country and hometown" in the first grade of an elementary school. Incorporating methods such as the adaptation of reading materials according to the reality of the students' situations, an examination of focused questions, and setting up role-playing, we subsequently verified the results through practicing what we would have taught. Judging from the children's reactions in this lesson, it was suggested that these measures are an effective means to improve practical moral skills.